

WORLD HERITAGE

NEWS

世界遺産ニュースレター

Letter

世界遺産富士山の  
後世継承のために

企画展示情報

「富士山の日」記念

秀景ふるさと富士写真展 白簷史朗追悼作品展

富士山が好きなら「ふじさんネットワーク」へ!

世界遺産センターからのお知らせ

研究員コラム

富士山は本当に「完全な円錐形」なのか?

vol.

42

Spring, 2020

富士山世界遺産センターでは、年間6回の企画展及び特別展を開催しています。過去には、大変貴重な葛飾北斎筆佐久間象山賛の「不二越龍図」などでの展示を行い大変好評いただきました。今後も富士山世界遺産センターの企画展・特別展に御期待ください。

## 「富士山の日」記念 秀景ふるさと富士写真展 白旗史朗追悼作品展

開催期間 令和2年2月22日(土)～4月5日(日)

人類の共通の宝として世界遺産に登録された富士山。静岡県では2月23日を「富士山の日」と定めています。富士山へのあこがれから、日本各地には「蝦夷富士(羊蹄山)」や「薩摩富士(開聞岳)」など、400以上の「ふるさと富士」があります。

静岡県では「富士山の日」の推進運動の一つとして、全国にある「ふるさと富士(見立て富士)」を撮影した写真を募集し、「秀景ふるさと富士写真コンテスト」を実施しました。

この度、富士山の日を迎えるにあたり、全国から募集があった「第10回秀景ふるさと富士写真コンテスト」の応募作品の中から入賞作品68点を展示します。

また、今回は、審査委員長を長年勤められた写真家の故白旗史朗氏を追悼して、写真集『富士眩耀』に収められた貴重な原板写真の公開を行います。



【デジタル 最優秀賞】  
宇田川 洋二  
「ダイヤモンド剣が峰」(大山)



【フィルム 最優秀賞】  
高橋 和幸  
「残春の阿寒富士」  
(阿寒富士)

### 企画展(令和2年4月～12月) ☆有料予定

企画展	テーマ・内容等	期間
引出しの中の富士山 一視て楽しむ、蒐(あつ)めて楽しむー	時代の変遷と共に、絵葉書や切手、マッチ箱等生活の中のデザインとして描かれた富士山を紹介	4/25～6/7
収蔵品展	「富士山真写～江戸時代知識人の愉しんだ真景・実景～」をテーマに富士山を描いた作品を紹介	6/26～7/25
富士山の湧水	富士山の湧水に関する知識の変遷を示しながら、その起源やメカニズム等に係る最新研究を紹介	8/8～10/4
☆「江戸文化シリーズⅢ」 ハイブリッド狩野派	19世紀前半の江戸画壇で一世を風靡した異色の狩野派画家である素川彰信(そせんあきのぶ)が描いた富士山画等を展示	10/24～12/6

## 富士山が好きなら「ふじさんネットワーク」へ!

ふじさんネットワークは、富士山を愛する環境保全団体、企業、行政、個人等で結成されています。静岡県自然保護課が事務局を務め、約550者が会員となっています。会費は無料で、県からの負担金と、企業・個人からの寄附金で運営しています。

環境保全イベントとして、ごみ拾い、外来植物の抜き取りなどを開催しており、参加するだけで富士山の環境保全に貢献できます。また、柿田川の観察会や、座学による勉強会など環境学習も行なっています。

さらに、会員の活動支援のため10万円以内の補助金も設けています。

ふじさんネットワークでは常時会員を募集しています。

CSR、ボランティアとして活動に参加された方は、ぜひ御入会ください。

申込書は、ホームページに掲載されています。

**ふじさんネットワーク 会員募集** で検索

また、寄附金を募り、その記念品として富士山ピンバッジを配付しています。

**ふじさんネットワーク ピンバッジ** で検索



# 静岡県富士山世界遺産センターからのお知らせ

## 第4回

静岡県富士山世界遺産センター・  
ふじのくに地球環境史ミュージアム  
合同国際シンポジウム開催のお知らせ

「富士山学の頂へー富士山がもつ普遍的価値の多面性ー」

日時… 令和2年3月14日(土)～15日(日)

場所… 静岡県コンベンションアーツセンター

「グランシップ」11階会議ホール「風」

概要… 『富士山学』の基礎となる「活火山 富士山」に焦点をあて、それらの最新の研究成果を広く紹介します。また、激しい噴火を繰り返してきた「荒ぶる山」である富士山の成り立ちとその容姿が、富士山の「信仰」と「芸術」を含む、日本の歴史・文化の深化や発展にどのように寄与したかについて紹介します。



3月14日(土)

・オープニング・レクチャー 9時30分～10時20分

欧州の火山遺産と富士山

・専門セッション1 10時20分～12時45分

活火山 富士山を取り巻く巻く大地の成り立ち

・専門セッション2 13時45分～16時35分

富士山をめぐる宗教テキスト学と画像学

3月15日(日)

・専門セッション3 9時30分～11時50分

時知らぬ山ー時空を越える富士山ー

・シンポジウム 13時15分～16時20分

富士山がもつ普遍的価値の多面性

・問題提起…ロナルド・トビ（イリノイ大学名誉教授） 富士山学への提言

・講演1…町田洋（東京都立大学名誉教授）  
建設と破壊を反復してきた富士山

・講演2…宮家準（慶應義塾大学名誉教授）  
日本人のアイデンティティとしての富士山

バイロン・エアハート著『富士山』によせて

・講演3…タイモン・スクリーチ（ロンドン大学

アジア・アフリカ研究学院教授）

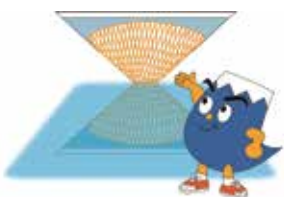
江戸の景観における富士山

・パネル・ディスカッション 静岡県富士山世界遺産センターの『富士山学』が目指すもの

※参加無料（要事前申込み）参加お申込み・お問い合わせ  
静岡県富士山世界遺産センター 05442113776

## 静岡県富士山世界遺産センター ふじっぴー誕生！

静岡県富士山世界遺産センターでは、「静岡県富士山世界遺産センターふじっぴー」のイラストを制作しました。  
特徴は、静岡県のキャラクターであるふじっぴーと、センターの象徴である木格子のコーラボレーション。今後センターの広報で活躍します。



## 公式ホームページ・ 公式フェイスブックの御案内

富士山世界遺産センターに関する最新情報を随時更新しています。  
公式ホームページには企画展、イベント情報のほか、団体・教育団体の申込方法についても掲載しています。



〈公式HPのQR〉

# 富士山は本当に「完全な円錐形」なのか？

静岡県富士山世界遺産センター学芸課 小林 淳 准教授(火山学)

富士山は約10万年前に生まれた若い火山です。富士山の特徴は、若いだけでなく、その誕生以来、玄武岩マグマのみを高頻度かつ大量に出し続けていることにあります。日本のような島弧の火山では稀な特徴であり、その結果、富士山は高くて大きな火山に成長しました。

## 富士山が生み出された場所

日本列島は4枚のプレートが重なり合う場所に位置します。このうち、伊豆・小笠原火山弧をのせるフィリピン海プレートは年約4cmの速さで北西方向に移動し、伊豆半島を先頭に大陸側のプレート(ユーラシアプレート、北米プレート)に衝突し、その下に沈み込んでいきます(図1)。沈み込んだフィリピン海プレートの深さ分布をみると、北西



(図1) 富士山周辺のプレート配置・運動と各活火山の火口分布

みると、北西—南東方向に軸を有する凸状に撓んだ形を示しており、この軸上に富士山が位置することが分かります。

## 玄武岩マグマを噴出し続ける富士山

富士山には約150km下にある太平洋プレート上面で生成されたマグマが上昇してきます。このマグマは深さ約15kmまで上昇した後、マグマ溜りを形成して貯留されます。しかし、富士山の下では2枚のプレート

が重なっているため、そのマグマ溜りの深さは、一般的な火山よりも深い位置にあり、その結果、より高温高圧の環境下で玄武岩マグマとして存在し続けることができます。そして、このマグマ溜りから地表に向かって高頻度かつ大量にマグマを出し続けます。先に述べたように、富士山はフィリピン海プレートが凸状に撓んだ軸部に位置します。凸状に撓んだプレートは、マントルから上昇してくるマグマを効率的に集めることができます。それに加えて、撓んだプレートの軸部には強い引張力がかかることから、マグマがさらに上昇するための岩盤中の亀裂を生じやすくなります。これらの要因によって、富士山では玄武岩マグマを多量に噴出し続けられたのかもしれない。

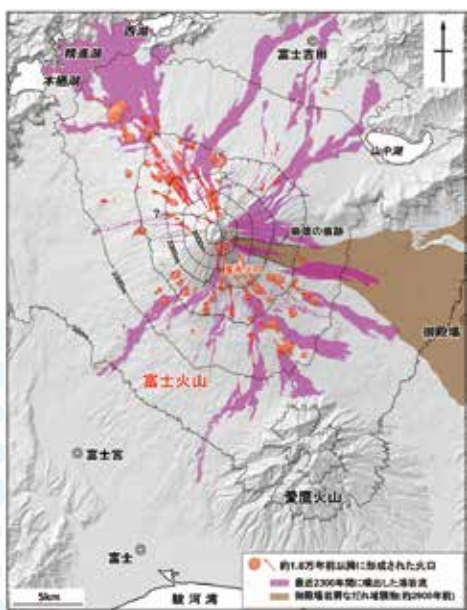
## 本当は「完全な円錐形ではない」富士山

富士山、愛鷹山、箱根山、伊豆大島の形を見ても、いずれの火山も北西—南東方向に伸びた形を示します。また、各火山上に形成された火口は北西—南東方向に並んでいます。これは、フィリピン海プレートが大陸側のプレートに衝突する方向に対して直交方向(北東—南西方向)に岩盤が開き、地下からマグマが板状に上昇・噴出することを長年繰り返してきたことで、この方向に山体が成長していったことを示しています(図1)。

次に富士山の細かい形について等高線に着目してみます(図2)。標高2500mより低いところでは、真円に比べると北西斜面と南東斜面が膨らんでいます。北東斜面もやや膨らんでいます。約1・8万年前以降に形成された火口の分布と照らし合わせると、火

山体が膨らんでいる方向と火口の密集域は一致しています。このように、等高線が膨らんでいる方向は、長年にわたってマグマが繰り返し噴出し、溶岩流等を堆積させながら、その方向に火山体を成長させてきたことを示しています。これに対して、東南東斜面の1500〜2000mでは等高線が僅かに凹んでいます。富士山では約2900年前に山体崩壊(御殿場岩屑なだれ)が発生し、その東斜面が大きく崩壊し、麓には崩壊物が厚く堆積しています。この凹んだ地形は山体崩壊の痕跡を表しています。そのようにみると、富士山南西斜面も一部凹んでおり、その麓には約1・8万年前の岩屑なだれ堆積物が存在します。

このように、富士山の形を細かくみると、必ずしも「完全な円錐形」ではないことが分かります。富士山の形は、富士山に加わる大地の力とそれに呼応した噴火の歴史を累積的に表している一方で、かつての山体崩壊の傷を消し切れていないことが分かります。我々が現在みる富士山は、その生成と崩壊の歴史を繰り返しながら、火山としての長い生い立ちを歩んでいる最中といえます。



(図2) 富士火山の火口・火砕丘と主要噴出物の分布